

インプレッシブ・ビジネストレーニング 提案書

1隻の船を想像してください。そして、その船をある港から目的地の港へあなた自身で航海させることを想像してみてください。

もちろんほとんどの方々はそのような経験はないはずですから、なにも準備せず、なにも理解せずに出港したらあっという間に事故になるでしょう。では、船を運航すること自体は無謀で不可能なことなのでしょうか？そんなことはありません。

視点を変えて、これを一つのビジネス・プロジェクトと想定してみてください。ビジネスシーンでは、経験のない領域・未知の世界へ踏み込んでいくということはごく普通の行為のはずです。

プロジェクトを成功・完結させるプロセスの根幹はどちらも同じものです。



このプロジェクトには、各作業を担当するスタッフが必要になります。

ここで提案します船を運航する場合、基本的には以下のような分担をします。

- ①スキッパー : 航海の目的を達成させることに責任を持ち、スタッフ全員を指揮します。
- ②ナビゲーター : 自分がどこを航行しているのか確認し、航海計画に対して自分たちがどのような状況にあるのかを解析します。
- ③ヘルムスマン : 舵(エンジンの使用を含む)を担当して、船の針路保持等航行を担当します。デッキクルーを指揮します。
- ④デッキクルー : 主に船上作業を担当し、セイルを調整して効率よく帆走させ、周囲の見張りをを行い、ヘルムスマンを補佐します。
- ⑤キャビンクルー : 主に船内の業務全般に責任を持ちスキッパーを補佐します。食事の準備はキャビンクルーの仕事です。

以上のようなスタッフの組み合わせで、船を航海させることになります。

なぜ、セイリングボートなのか？



セイリングボートは、自然の力である風を利用して航海します。

船の速度は6kt(ノット)程度とちょうど自転車ぐらいの速度ですので、飛行機を操縦するような、あるいは高速道路を走行するような、瞬時の判断を常時必要とされるわけではなく、初心者でも対応でき不可欠のスタッフとして参加できます。

そして、常に変化する気象条件のため、様々な点で微妙な調整を必要とします。風や波にあわせて船を操作することになりますので、自分たちだけで船を航海させていることの実感できます。

ただし、スタッフ各自の所掌作業ができるだけ正確に実施されなければなりませんし、全てのスタッフの機能が統合されないと船は効率よく走ってくれません。これは、会社組織やプロジェクトチームのスタッフ構成やその運用によく似ています。各人が担当のファンクションで正確に機能することと、そのファンクションを統合することで船という組織が動き出します。

例えば、新人にとって社内業務も船上作業もまったく初めての経験のはずです。セイリングボートの場合では、その個々の業務の重要性が顕在化されます。またリーダーには、コマンド、コントロール、コミュニケーション、インテリジェンス(C3I)を駆使することを求められます。それは社内も船上もまったく同じものです。では号令をかけるだけで船と人が動くでしょうか。答えは“NO！”です。物事がそれほど単純でないことは、皆さん自身がよくご存知のはずです。

航海の要素とは

船が水面を走ることが航海である……それほど単純ではありません。

例えば、朝7時に出港して午後3時に次の港へ入港することにしましょう。

起床は何時ですか？朝の6時半までに朝食を終わらすためには、キャビンクルーは何時から朝食の準備を始めますか？

朝食が終わってその後始末は出港時刻までに完了できていますか？その日に必要な水・食料・燃料は大丈夫ですか？

出港時刻が近付いてきたときに、現在の作業の進捗状況で計画通りに出港できそうですか？

さて出港にあたって予定外の障害物はありませんか？天候に合わせた航海計画の変更は必要ありませんか？

走り始めたら、航海計画と比較して遅れていますか？進んでいますか？予定コースからどれほど逸れていますか？

どのように修正していきますか？

すぐに昼食の時間が迫ってきます。昼食の準備は何時に始めますか？

その間も船は休みなく走ります。揺れる船内、食事準備はできますか？

目的地へは何時に到着できますか？目的地の状況は予想通りですか？

予定通りでなかったら第二案は？入港したら必要なところへ報告手続き。

その港で水補給の手段は？燃料補給の手段は？明日以降の食料の調達

は？スタッフの健康状態は？せっかく来たのですからその地方の訪問する

べきスポットは？名物は？お風呂は？

全てが航海の要素です。



航海の目的の達成

航海に関わる作業をはじめから上手にできるはずがありません。

やることは多数ありその本来の目的や意義が分かりにくいところがあることは、海も一般社会も同じことです。

船を運航する場合、個々の作業の完成度が各員に求められ、さらにそれを集積した段階でようやく船が動き始め、それを維持・継続することで船は安全に次の目的地へ到達することができます。

しかしながら、ほとんどの場合、計画通りにはいきません。そこで、ならばどうするかという臨機応変の創造性が求められます。

個々の責任の重要性、チームワークの重要性、新しい発想や、場合によっては少々危険の側に踏み出さないと目標到達ができないこともあるでしょう。海の上では全てのことを自分達でやらなければなりませんし、誰かがそれを達成できない場合は他のスタッフがカバーしなければなりません。海は無限の組み合わせのシナリオを提供してくれます。

数日後、タフなスタッフが育成されて船が入港してきます。



航海計画及びスケジュールの例 (4泊5日の場合)

1日目		3日目	
09:00	集合	07:00	朝食
10:00(10:30)	出港準備	08:00	出港
10:30	出港	14:00	下田入港
12:30	保田港入港	14:00(14:30)	入港附带作業
13:00(15:00)	昼食兼打合せ	14:30(18:00)	自由行動
15:00(18:00)	食料品調達等	18:00	夕食
18:00(19:00)	身辺整理	19:30(21:00)	入湯・自由行動
19:00(20:00)	夕食	21:00(22:00)	四日目の打合せ
20:00(21:00)	入湯・自由行動	23:00	消灯
21:00(22:00)	二日目の打合せ	4日目	
23:00	消灯	07:00	朝食
2日目		08:00	出港
07:00	朝食	14:00	波浮港入港
08:00	出港	14:00(14:30)	入港附带作業
16:00	熱海入港	14:30(18:00)	自由行動
16:00(16:30)	入港附带作業	18:00	夕食
16:30(18:00)	自由行動	19:30(21:00)	入湯・自由行動
18:00	夕食	21:00(22:00)	五日目の打合せ
19:30(21:00)	入湯・自由行動	5日目	
21:00(22:00)	三日目の打合せ	05:00	出港
23:00	消灯	13:00	入港
		13:00(15:00)	清掃・撤収作業
		15:00(16:00)	評価・研究会
		16:00	解散



各港の入港後の自由行動時間には、補給品調達(水・食料・燃料等)作業を含む。
 夜の打合せは次の日のスキッパーがコントロールする。
 スキッパーは担当日のスケジュールの詳細及び各員への作業割り当てを管理する。
 航海訓練とは別途の教育研修等に関しては、調整して組み込みを図る。
 入港から消灯までの間のスケジュールはスキッパーの監督により変更できる。

セイリングボートの操作の基本や航海術に関しては、完全サポートしますのでご安心ください。

そして最大限の体験をしていただくようにお手伝いします。

リーダーシップの体験・養成、コミュニケーション能力の訓練、スケジューリングの考え方、状況分析の手順、

あるいはそれらを踏まえたうえで航海というシーンでのリフレッシュ、etc. 組み合わせは無限です。

何をテーマにするかでアプローチは変わってきます。

この提案は合宿体験型のビジネストレーニングであり、決してヨット教室ではありません。

お気軽にご質問ください。

D.S.T. Direct Support Team

合同会社D.S.T. 代表

鈴木 浩 治
Suzuki Koji

Tel; 090-3235-3838

Fax; 046-807-0007

E-Mail; k_suzuki@d-s-t.jp

<http://www.d-s-t.jp>

〒240-0105 神奈川県横須賀市秋谷2-19-16



防衛大学校ヨット部監督
ISPA インストラクター